書写力向上をめざして

―基礎・基本とその応用―【第52回】

「書写の要素」について ㊿一〈筆順(9)〉

山梨大学名誉教授　宮澤　鵞州

筆順は、字形を整える上で極めて重要な要素です。これまで解説してきた『筆順指導の手びき』による筆順の原則や注意すべき筆順などに基づいて、先月号で掲載した「筆順チェック(問題)」の正解と正解率を示し、解説いたします。

『筆順チェック』の正解と正解率

先月号の筆順調査チェック（問題）はいかがでしたか。18頁に正解を掲載しましたので答え合わせをしてください。筆順とともに、総画数も加えて調査しています。これは、筆順が違うと画数が変わる場合もあり、両者は表裏一体の関係にあることから調査の対象としているものです。

筆順の正解は、学校教育における筆順指導の拠り所となっている『筆順指導の手引き』に従って作成しています。また、総画数は、筆順に従う画数であり、「教科書体」で示される画数を正解としています。実際に行った調査結果を次頁に掲載しました。調査日と調査の対象数は次の通りです。

・調査日：2017年5月

・調査対象：Y大学の共通科目「国語表現」受講者113名（男：77名　女：36名）

■筆順の正答率

次頁の表は今回の調査の正答率を示しています。注意喚起の意味と解説の都合で、上から正答率の低い順に並べています。

○正答率の低い漢字・仮名

調査で出題された漢字・仮名の中で正答率の低い10文字は次の通りです。（　）内は、参考として2010年度の調査結果も示しました。

ワースト10

2017年度		(2010年度)
1位	「虐」 4%	(2位 10%)
2位	「凸」 5%	(6位 25%)
3位	「凹」 6%	(1位 3%)
4位	「ヲ」 11%	(5位 20%)
5位	「博」 21%	(4位 17%)
6位	「座」 27%	(3位 13%)
7位	「秀」 32%	(12位 40%)
8位	「善」 33%	(15位 50%)
9位	「医」 33%	(7位 27%)
10位	「巨」 35%	(14位 45%)

という結果が出ました。

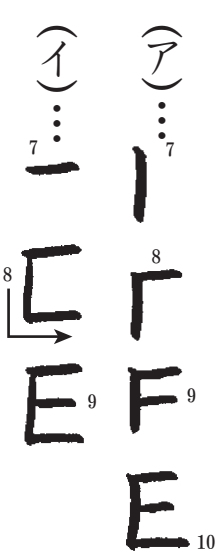
2010年度の調査と比べると順位に多少の差はあるものの、ワースト6位までは同じ漢字・仮名がランクインしており、本調査における筆順の誤り易い不動の漢字・仮名と言えるでしょう。

○誤答率1位「虐」について

「E」の部分の筆順を調査対象にしたのですが、4%の正答しか得られませんでした。誤答例はほとんどが（ア）「筆順＝9　総画数＝10」や（イ）「筆順9　総画数9」となっていました。漢字に「E」形の例がほとんど無いことや、筆順の異なるアルファベットの「E」と同形であることなどが要因と考えられます。「区・医・匹など」の筆順と関連づけて捉えることで筆順の間違いは減ると思われます。

・虐の「E」部の筆順（正解）

・「E」部の誤った筆順



・アルファベット「E」の筆順

・「区」の筆順

2017年度 調査結果

番号	漢字	正答率 男	正答率 女	正答率 全体
57	虐	3%	8%	4%
71	凸	1%	14%	5%
72	凹	6%	6%	6%
70	ヲ	8%	17%	11%
44	博	21%	22%	21%
18	座	32%	14%	27%
36	秀	27%	42%	32%
25	善	27%	44%	33%
32	医	34%	31%	33%
41	巨	38%	28%	35%
51	恵	38%	42%	39%
37	華	47%	31%	42%
7	布	44%	42%	43%
34	斉	44%	42%	43%
17	飛	43%	47%	44%
20	馬	49%	42%	47%
15	卵	43%	58%	48%
21	垂	53%	39%	49%
8	感	56%	39%	50%
11	収	56%	42%	51%
33	兆	51%	56%	52%
19	皮	57%	47%	54%
14	発	47%	75%	56%
28	書	56%	58%	57%
53	龍	51%	69%	57%
55	喪	58%	56%	58%
59	歌	52%	69%	58%
38	初	58%	58%	58%
40	角	52%	72%	58%
49	孤	62%	53%	59%
63	も	56%	69%	60%
46	衆	60%	67%	62%
2	可	58%	75%	64%
10	情	60%	72%	64%
45	粛	65%	64%	65%
54	臼	62%	69%	65%
43	幽	68%	61%	65%
50	夢	61%	78%	66%
56	寒	71%	69%	71%
60	冊	77%	61%	72%
58	過	77%	64%	73%
12	防	71%	78%	73%
22	再	75%	81%	77%
23	報	77%	78%	77%
16	必	75%	83%	78%
68	メ	75%	83%	78%
48	率	78%	86%	81%
5	九	77%	92%	81%
26	帯	78%	89%	81%
27	由	77%	94%	82%
66	ネ	83%	81%	82%
30	病	84%	81%	83%
47	印	81%	89%	83%
64	や	82%	89%	84%
35	起	83%	89%	85%
31	承	82%	94%	86%
6	方	81%	100%	87%
42	添	88%	89%	88%
39	辻	87%	94%	89%
3	以	92%	94%	93%
9	在	91%	97%	93%
13	独	92%	97%	94%
65	よ	94%	94%	94%
1	不	94%	97%	95%
61	せ	94%	97%	95%
4	主	94%	100%	96%
29	無	95%	97%	96%
52	寿	96%	97%	96%
62	な	95%	100%	96%
67	ヒ	95%	100%	96%
24	耳	96%	100%	97%
69	モ	99%	100%	99%

筆順を確認してみよう

筆順チェック（正解）

1 不	2 可	3 以	4 主	5 九	6 方	7 布	8 感	9 在	10 情
4 3	5 2	5 3	5 3	2 1	4 3	5 1	13 1	6 2	11 3
11 収	12 防	13 独	14 発	15 卵	16 必	17 飛	18 座	19 皮	20 馬
4 2	7 3	9 3	9 4	7 4	5 2	9 4	10 8	5 2	10 1
21 垂	22 再	23 報	24 耳	25 善	26 帯	27 由	28 書	29 無	30 病
8 3	6 4	12 9	6 3	12 6	10 2	5 3	10 6	12 8	10 4
31 承	32 医	33 兆	34 斉	35 起	36 秀	37 華	38 初	39 辻	40 角
8 3	7 2	6 1	8 8	10 7	7 6	10 6	7 5	5 4	7 6
41 巨	42 添	43 幽	44 博	45 粛	46 衆	47 印	48 率	49 孤	50 夢
5 1	11 8	9 1	12 9	11 4	12 7	6 3	11 6	9 7	13 4
51 恵	52 寿	53 龍	54 臼	55 喪	56 寒	57 虐	58 過	59 歌	60 冊
10 6	7 5	16 10	6 5	12 3	12 5	9 8	12 3	14 2	5 3
61 せ	62 な	63 も	64 や	65 よ	66 ネ	67 ヒ	68 メ	69 モ	70 ヲ
3 2	4 3	3 2	3 2	2 1	4 3	2 1	2 2	3 3	3 2
71 凸	72 凹								
5 2	5 4								

点 ＿＿＿ 72

予想点 ＿＿＿ 72

次の文字の太い線 ━ は何画目ですか。また総画数は何画ですか。

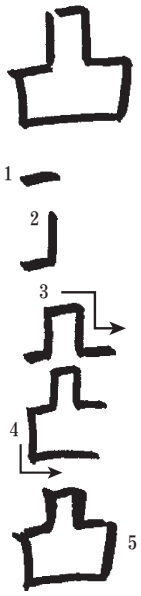
例 右 5 1（筆順）（総画数）

○誤答率2位「凸」と3位「凹」について

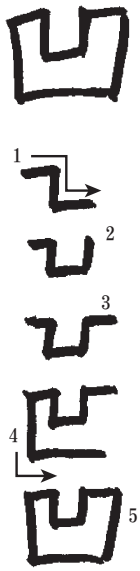
「凸」は「凹」とともに、昭和56年告示の「常用漢字表」に加わった漢字です。それ以降、中学校で学習する漢字になっているのですが、使用頻度が低いせいか、それとも中学校で筆順指導が徹底されていないせいか、いずれにしても正答率はきわめて低いと言えます。両字とも左側の縦画部を一画目とカウントし、「総画数＝6」「総画数＝7」と誤る例が圧倒的多数でした。「凸」「凹」とも部首が二画の「 凵 （かんにょう・うけばこ）」であることを理解すれば正解しやすくなります。

なお、「凸」は、字典によって、一画目と二画目が異なって示されているようです。

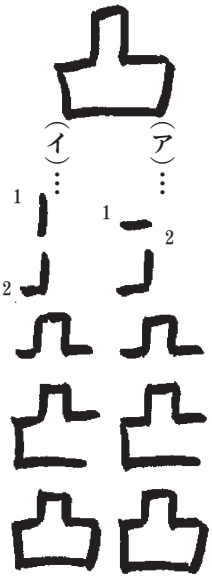
・「凸」の筆順（正解）



・「凹」の筆順（正解）



・「凸」一、二画目の異なる例



（ア）（左から右への動きがスムース）

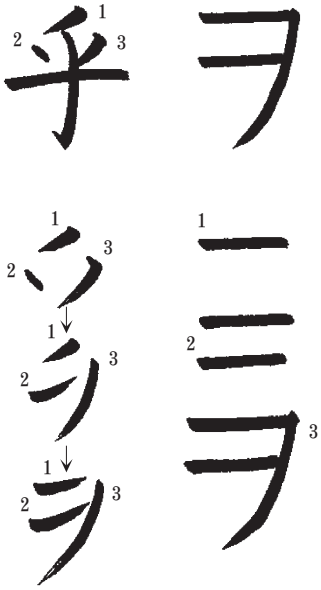
（イ）（二画目が一度左に出るので、移動が大きくなる）

「凸」の筆順二通りについては、いずれも誤りとは言えないのですが、筆順の原則である、「上から下」「左から右」のどちらを優先して書くかといった違いによるものと思われます。筆者の見解は、左から右への移行が単距離でスムースに書けるので「ア」の筆順がふさわしいと考えます。

○誤答率4位「ヲ」について

片仮名は小学校低学年で学習するにもかかわらず、ワ行の「ヲ」はきわめて正答率が低い文字です。誤答例はほとんどが「筆順＝2　総画数＝2」となっていました。毎年行なう調査でも決まってワースト10に入ってきます。漢字平仮名表記の現在では、片仮名の「ヲ」を助詞として用いる機会がほとんどなく、また名詞にもめったに使用されないことから、「ヲ」への意識は筆順も含めて相当低いといえるでしょう。加えて、片仮名には「フ」の画を持つものに「ア・ウ・ク・ス・セ・タ・ヌ・ネ・フ・マ・ヤ・ラ・ワ」と多いため、これに合わせるように「ヲ」についても、「フ」の画に「一」の書き順とするのがきわめて自然な書き方だと受け止められているのでしょう。

・「ヲ」の正しい筆順（正解）



・（誤り）二画で書かれる場合の「ヲ」の筆順

※かつて、次のような筆順で書く例もあった。

（特別な例）

「ヲ」は、「乎」の一・二・三画目を字源としていることからこの筆順で書かれ、総画数は三画となります。

文字の字源から「ヲ」の筆順を理解することは、我が国固有の「仮名文字文化」の一端に触れることになるので、学校教育でしっかり指導してほしいと願っています。

○5位「博」について

旁部の右上部の筆順に誤りが多く見られます。誤答例のほとんどが、点を最後に書くとする「筆順＝12」でした。「博」の筆順についてはこれまでも述べてきたところですが、右上部はもと「甫」と書かれていたために、筆順の原則として「貫く縦画は後に書く」筆順が、今日の字体に残っています。かつての字体の筆順が今も残っていることは、筆順の原則との整合性や合理性から考えるといかがなものかと思われます。

なお、文字の右上に存在する「点」を最後に書くという筆順の流れは、多くの学生に見られました。文字を書き終えた「締め」として右上に「点」を打つのは、文字を書く上での共通するリズムなのかもしれません。

・博の筆順（正解）

※の筆順が残っている

○6位「座」について

「座」の正答率の低さは、「土」部の筆順が定着していないことを示しています。「坐」は「土」と向かい合った「人」がいる様子を示しているので、単独形の「土」と同様、縦画をあまり突き出さずに書いて差し支えないのでしょうが、古来「土」の縦画を長く書き、それを挟んで左右に「人」を書くスタイルが定着していることから、今日でも「縦」「横」「横」の筆順で書かれているものと思われます。

別の調査では、「土」を「横・縦・横」の順に書くと「土」は単独の「土」のように縦画はあまり長くはなりません。一方、「縦・横・横」の順に書くと縦画が長くなり、字形が整うようです。

・座の筆順（正解）

の筆順で書くと…

の形になりやすい

以上、本調査によるワースト6位までの文字を採り上げました。いずれも30％を切る正答率でした。特に「ヲ」は、小学校低学年で学習する片仮名にもかかわらず正答率11％（2010年度は20％）と、ほぼ十人に一人だけしか正確な筆順で書けていないと言う結果が出ました。書く機会の少ない文字だけに、小学校の中・高学年、中学校でも「イロハ歌」などを用いて、字源からの指導を試みる必要があるでしょう。

続きは次号とします。